

第 53 期
株主レポート

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日



株式会社フレンドリー

株主の皆様へ



株主の皆様には、いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび当社第53期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の決算を行いましたので、事業の概況および計算書類等を次のとおりご報告申し上げます。

株主の皆様には、このうえとも一層のご理解、ご鞭撻を賜りますようひとえにお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長 重 里 育 孝

事業の概況

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善と輸出・設備投資の増加を背景に、緩やかな回復を続けてきましたが、個人消費は横ばいで推移しております。当外食業界におきましては、店舗過剰による同業他社との競争激化に加え中食業界との競合、飲酒運転の社会問題化による外食離れの影響等により、経営環境は極めて厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社におきましては、事業構造改革の2期目として好調な新業態（都市型居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼう」、「産直鮮魚と寿司・炉端 源べい」）の新規出店・転換と不採算店・低採算店の閉鎖を柱とした事業構造の改革に全力を挙げて取り組んでまいりました。

店舗増減につきましては、当期中に新業態を21店舗（内 業態転換16店舗）出店、既存業態を28店舗（内 業態転換16店舗）閉店いたしましたので、当期末の総店舗数は前期末比7店舗減少し、131店舗となりました。

商品政策につきましては、“健康・安全・おいしさ”の見地から食材を厳選し、お値打ち感のある商品の提供に努めました。また、健康応援の観点から「食事バランスガイド」（財団法人 食品産業センター）を参考にしたメニュー作りにも取り組んでおります。食の安全・衛生管理につきましては、「フレンドリー購買基準」の構築と衛生管理・検査体制を確立し、ISO 9001とともに厳格に運用しております。

損益面につきましては、事業構造の改革が概ね計画通りに進捗しており、業績は回復基調にあります。新業態の「土筆んぼう」と「源べい」が好調で、不採算店の閉店による店舗数の減少や既存業態の苦戦をカバーして増収と営業（経常）増益を確保することができました。なお、事業構造の改革を一層推進するために計画を上回る業態転換と不振店の閉店を実施するとともに、将来も見越した減損会計の厳格な適用と繰延税金資産の取崩しによる資産内容の健全化を実施いたしました結果、減損損失や、将来の閉店に備えた店舗閉鎖損失引当金等合計636百万円を特別損失に計上し、法人税等調整額として税金費用を368百万円計上いたしました。

以上の結果、当期における売上高は16,390百万円（前期比98百万円・0.6%増）、営業利益は104百万円（同216百万円増・一）、経常利益は145百万円（同264百万円増・一）、当期純損失は901百万円（同116百万円・14.8%増）となりました。

当期は、大幅な当期純損失を計上いたしましたが、来期以降の業績回復見通しと安定配当の方針・今後の事業展開に必要な内部留保等を総合的に勘案して、期末配当金は前期同様、1株当たり5円とさせていただきますので、宜しく願い申し上げます。

今後につきましては、景気は緩やかな回復が見込まれておりますが、同業および中食業界を交えての競争・競合の激化は避けられず、経営環境は引続き厳しいものと予想しております。

このような状況のもと、喫緊の課題として以下の7項目への取り組みにより、業績の回復に努めてまいります。

①事業構造の改革、②新業態の開発、③新規出店の強化、④商品開発力の強化、⑤接客サービスの向上、⑥人材の育成、⑦品質管理・環境問題への対応

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



<http://www.friendly-co.com/>



friendly/

「おいしい」「たのしい」「こちいい」を
合い言葉に、お客様に“いい気分”を味わっていただくこと、
これがフレンドリーのストアポリシーです。

カジュアルで親しみのある
新しい「ファミリーダイニング&カフェ」のスタイルを確立し、
快適な雰囲気ですべてを楽しんでいただく。

フレンドリーは、
そんなお店をめざしています。



フレンドリーは、お客様とのご縁を大切にするお店づくりをめざします。

お客様のちょっとした嬉しいこと、おめでたいプチハレの時も、
共に喜びあう事のできるお店にしたいと思えます。

またフレンドリーはお客様同士のご縁も大切にしたいと思えます。

家族や親族（血縁）、地域社会やコミュニティー（地縁）、
会社や仕事のお仲間（職縁）、クラブ・サークルやお友達同士（好縁）など、
様々なご縁で結ばれたお客様同士が、より一層、縁（えにし）を深めていただける、
そのようなお店でありたいと願っています。

平成19年6月末現在店舗数 52店

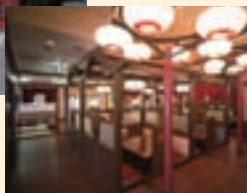


<http://www.bonds.co.jp/>

旬 鮮 食 彩

新鮮な旬の食材を彩とりどりの旨味と持ち味を活かしたメニューづくりに心がけています。

四季折々の美味しさとともに、お友達やご家族が和気あいあいと楽しい団欒のひとつきを味わっていただく。ボンドは、そんなお店を目指しています。



ボンドは食を通じた^{だんらん}団欒と、ふれあいの^{きずな}絆づくりを大切に考えます。

人が生きるための基本である「食」を、深く豊かなレベルで見つめ直した時、自ずと浮かび上がったテーマがおいしさの追求でありより良いサービスの追求でした。

食事をおいしく、楽しく食べるのが人間の理想だからと、食材のクオリティを追求した結果、日本全国の産地から旬の素材をさがし、また世界各地からの直輸入システムの開発へと道がつながりました。

これからの活動は、食を核とした新しく総合的な業態を展開する端緒となると信じています。巡り巡って、豊かな暮らしをお手伝いすることに役立っている私たちの事業に誇りを持っています。

そして「何よりお客様の満足を優先する」姿勢をくずさずにこれからの道を歩みたいと思います。

平成19年6月末現在店舗数 38店



<http://www.friendly-co.com/genpei/>

備長炉端

ミネラルを豊富に含んだ備長炭で、産地直送の旬の新鮮素材を焼き上げる炉端料理。旨味を閉じこめ、外はパリッと中はジューシーに、素材の旨さが引き立つ自慢の逸品です。

寿司

厳選された旬の素材とこだわりの米を使い、ひとつひとつ丁寧に握ったできたてをお出します。妥協を許さない味わいと目にも鮮やかな新鮮素材のお寿司をご堪能ください。

産直鮮魚のおさしみ

まぐろは長崎の本まぐろを一本仕入れ。産地直送仕入れにより、生の「活けメ」をご提供します。旬の鮮魚も漁場と交渉し産地直送で、素材の美味しさをそのままお届けします。



平成19年6月末現在店舗数 24店

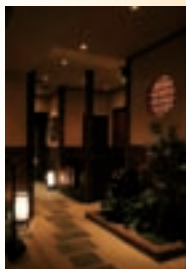


[http://www.friendly-co.com/
tsukushinbo/](http://www.friendly-co.com/tsukushinbo/)

里山の美

古民家造りの旅館をイメージし
日本の四季や、自然の中での懐かしい記憶を
呼び起こすことのできる
ノスタルジックな雰囲気 연출

駅前立地に出店する「都心型業態」



「和み料理と味わいの酒・土筆の里山」は、
日本の原風景<里山>をテーマにしたお店です。
誰もが「ホッ」と和み落ち着ける店内で、
あたたかい気持ちになってお料理もお酒も楽しんで頂けます。
ここでは、日常に追われて忘れかけていた大切なものが見つかるかもしれません。
あなたも「土筆の里山」で、ちょっと立ち止まってみてはいかがでしょうか？

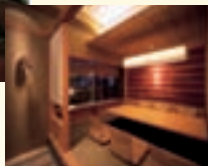
平成19年6月末現在店舗数 15店

業 態 紹 介



<http://www.takemaruya.jp/>

和食竹〇屋は、かぐや姫の里・小京都竹原をテーマにした本格的和食のお店です。
シンプルでありながら“小粋な(わ・なごみ)”と“寛ぎ”を感じる食の空間を演出。
本格せいろ御飯や匠が造った本物の豆富料理……
貴方も和食竹〇屋でちょっと贅沢してみませんか？



平成19年6月末現在店舗数 1店



<http://www.friendly-co.com/eatmeet/>

健康応援バイキング・レストラン。

自家製の和惣菜や料理、サラダ、スープ、ドリンク、デザートなど
毎日60種以上のメニューをご用意して、
お客さまに主食、副菜、主菜、乳製品、果物を自由に組み合わせて
バランスのとれたお食事を、たのしんでいただけるお店です。



平成19年6月末現在店舗数 1店

フレンドリー品質保証システム

Friendly Quality Assurance System

近年、BSEをはじめ残留農薬、食品添加物など
食品の安全性を脅かす問題が頻発しております。

このような状況のなか、お客様に安心してお店をご利用いただくために

当社では、**フレンドリー品質保証システム**
Friendly Quality Assurance System の確立に取り組んでおります。

フレンドリー品質保証システムの全体図



貸借対照表 (平成19年3月31日現在)

(単位：千円、未満切捨て)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	3,337,665	流動負債	1,600,765
現金及び預金	2,857,511	買掛金	445,884
売掛金	54,735	1年以内返済の長期借入金	415,000
商品	6,642	未払金	479,755
製品	17,610	未払法人税等	62,753
原材料	115,772	未払消費税等	73,457
貯蔵品	1,485	預り金	21,183
前払費用	102,137	店舗閉鎖損失引当金	96,271
繰延税金資産	75,905	その他	6,459
未収入金	105,838	固定負債	1,994,063
その他	277	社債	600,000
貸倒引当金	△ 250	長期借入金	860,000
固定資産	8,638,367	長期未払金	6,958
有形固定資産	5,332,410	繰延税金負債	82,020
建物	2,370,490	再評価に係る繰延税金負債	210,927
構築物	124,601	長期預り金	81,000
機械装置	57,085	役員退職慰労引当金	153,156
車両運搬具	358	負債合計	3,594,828
器具備品	465,255	(純資産の部)	
土地	2,314,619	株主資本	9,181,331
無形固定資産	63,071	資本金	3,975,062
借地権	46,176	資本剰余金	3,058,146
ソフトウェア	6,084	資本準備金	3,058,146
電話加入権	10,629	利益剰余金	2,156,986
水道施設利用権	180	利益準備金	228,350
投資その他の資産	3,242,885	その他利益剰余金	1,928,636
投資有価証券	280,842	別途積立金	2,140,000
関係会社株式	50,000	繰越利益剰余金	△ 211,363
長期貸付金	16,657	自己株式	△ 8,863
長期未収入金	67,800	評価・換算差額等	△ 800,127
長期前払費用	73,294	その他有価証券評価差額金	130,836
差入保証金	2,548,678	土地再評価差額金	△ 930,964
店舗賃借仮勘定	25,000	純資産合計	8,381,204
その他	180,613	負債・純資産合計	11,976,032
資産合計	11,976,032		

損益計算書 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

(単位：千円、未満切捨て)

科 目	金	額
売 上 高		16,390,368
売 上 原 価		5,163,393
売 上 総 利 益		11,226,975
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		11,122,248
営 業 利 益		104,726
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	9,038	
受 取 配 当 金	4,930	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	187,100	201,069
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	18,449	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	142,154	160,603
経 常 利 益		145,192
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	83	83
特 別 損 失		
減 損 損 失	528,263	
固 定 資 産 除 却 損	49,150	
店 舗 閉 鎖 損 失 引 当 金 繰 入 額	33,710	
店 舗 等 賃 借 契 約 解 約 損	4,000	
そ の 他 の 特 別 損 失	21,540	636,664
税 引 前 当 期 純 損 失		491,388
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		41,530
法 人 税 等 調 整 額		368,212
当 期 純 損 失		901,130

キャッシュ・フロー計算書(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位：千円、未満切捨て)

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	437,679
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 118,435
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	176,028
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	—
V. 現金及び現金同等物の増加額又は減少額	495,272
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	2,362,239
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	2,857,511

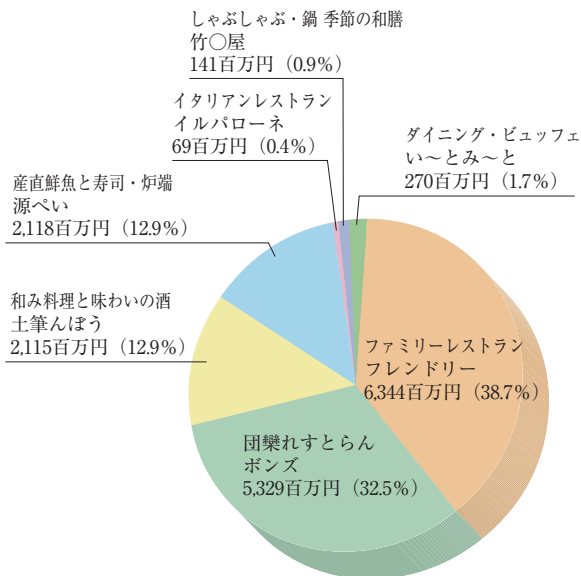
株主資本等変動計算書(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位：千円、未満切捨て)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		
			資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金
		別途積立金			繰越利益剰余金
平成18年3月31日残高	3,975,062	3,058,146	228,350	2,640,000	261,842
当期中の変動額					
剰余金の配当					△ 73,152
当期純損失					△ 901,130
自己株式の取得					
別途積立金の取崩				△ 500,000	500,000
土地再評価差額金取崩額					1,077
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)					
当期中の変動額合計	—	—	—	△ 500,000	△ 473,206
平成19年3月31日残高	3,975,062	3,058,146	228,350	2,140,000	△ 211,363

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月31日残高	△ 7,808	10,155,592	174,243	△ 929,887	△ 755,643	9,399,949
当期中の変動額						
剰余金の配当		△ 73,152				△ 73,152
当期純損失		△ 901,130				△ 901,130
自己株式の取得	△ 1,054	△ 1,054				△ 1,054
別途積立金の取崩						
土地再評価差額金取崩額		1,077				1,077
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)			△ 43,406	△ 1,077	△ 44,484	△ 44,484
当期中の変動額合計	△ 1,054	△ 974,260	△ 43,406	△ 1,077	△ 44,484	△ 1,018,744
平成19年3月31日残高	△ 8,863	9,181,331	130,836	△ 930,964	△ 800,127	8,381,204

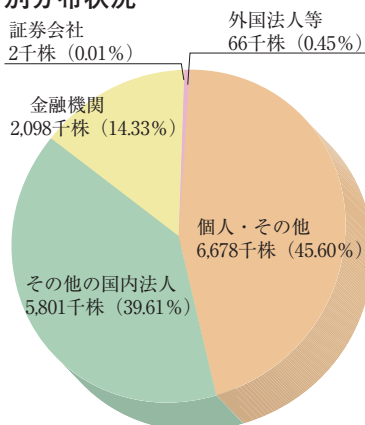
部門別売上高の状況 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)



第53期 売上高16,390百万円

株式の状況 (平成19年3月31日現在)

●所有者別分布状況



会社の概要 (平成19年3月31日現在)

- 商号 株式会社 フレンドリー
- 英文商号 FRIENDLY CORPORATION
- 設立 昭和29年8月9日
- 資本金 3,975,062,600円
- 発行済株式総数 14,645,584株
- 従業員数 383名
- 本社 大阪府大東市寺川三丁目12番1号
- 工場 大阪府大東市寺川三丁目12番1号
- 主な事業内容 ファミリーレストラン事業

役員 (平成19年6月27日現在)

代表取締役社長	重里育孝
常務取締役	吉村哲行
取締役	牧野健太郎
取締役	小瀬透
取締役	三好秀文
常勤監査役	手川明映
監査役※	山口利昭
監査役※	大西耕太郎

(注) ※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主ご優待

毎年3月末日および9月末日の最終の株主名簿（実質株主名簿）に記載または記録された1,000株以上ご所有の株主各位に、1回10,000円（500円券20枚）相当の株主優待お食事券を年2回贈呈。
有効期間は発行日から1年間。

※上記ご優待は、平成19年9月末日より適用となります。

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 単元株式数 1,000株
- 配当金受領
株主確定日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 基準日 定時株主総会 3月31日
その他、必要あるときはあらかじめ
公告して定めた日
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
- お問合せ先
(郵便物送付先) 〒135-8722
東京都江東区佐賀1丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社
証券代行部
- (電話照会先)
(インターネットホームページURL) 電話 0120-288-324
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>
- 同取次所 みずほ信託銀行株式会社
全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社
本店および全国各支店
- 公告方法 日本経済新聞に掲載

決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書は、EDINET（証券取引法に基づく有価証券報告書の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。



株式会社フレンドリー

本社 / 〒574-0014 大阪府大東市寺川三丁目12番1号
電話 072 (874) 2747

ホームページアドレス
<http://www.friendly-co.com/>